

韓国における外国語としての韓国語教育の実態調査

崔 昇浩・飯田秀敏

1 はじめに

2002年現在、韓国には30万人もの外国人労働者¹が働いていると言われている。この他に外国人留学生がおり、韓国在住の外国人の数は年々増加する傾向にある。それに伴い外国人向けの韓国語教育も急速に活発化していると言われるが、その実態に関する調査はほとんど行われていないのが実情である。現在、外国語としての韓国語講座を開設している学校は韓国全土で40校とも50校とも言われているが正確には把握されていない。そこで韓国国内において外国語としての韓国語教育がどういう形で行われていて、また今現在どういう状況下にあるか、などの実態に関して調査を行なった。本稿は、調査結果の報告である。

調査は2002年8月現地韓国において行った。調査方法は韓国で外国人向け韓国語教育を行っている機関に出向き、予め準備した質問項目に直接答えてもらうインタビュー形式を採った。このような方法を採ったため、外国人向け韓国語教育を実施している教育機関のすべてを調査することはできなかった。また、教会やYWCAなどの機関においても韓国語教育を行っているという話も聞いているが、今回は対象外とせざるを得なかった。

調査対象校は22校（外国語専門学校1校（カナダ韓国語学院）を含む）で、その地域別内訳は次の通りである。

ソウル（11校）：カナダ韓国語学院、建国大学校、慶熙大学校、高麗大学校、ソウル大学校、成均館大学校、淑明女子大学校、延世大学校、梨花女子大学校、韓国外国語大学校、漢陽大学校

忠清道（3校）：大田大学校、培材大学校、鮮文大学校

¹ 産経新聞（大阪版）黒田勝弘（平成14年10月27日）氏による。

崔 昇浩・飯田秀敏

全羅道（1校）：全南大学校

慶尚道（2校）：慶北大学校、大邱大学校

釜山（5校）：東西大学校、東亜大学校、東義大学校、釜慶大学校、釜山大学校

調査対象校の半数がソウル地区の学校であるのは、調査の都合上そうだったわけではない。韓国は人口の都市集中が甚だしく全人口の4分の1が首都圏に集中しており、大学も半数以上が首都圏にある。外国人向けの韓国語教育機関となると首都圏集中現象はさらに甚だしく、大半はソウル地区にあると考えられる。したがって、今回の調査ではむしろ地方に厚くなるように対象校を選んである。ただし、江原道と済州道は調査日程の関係上対象から外さざるを得なかった。

今回の実態調査の主な設問項目は次の通りである。

韓国語教育講座を開設した時期

韓国語教育講座の開設目的

韓国語教育講座の実施状況

韓国語教育研究科の有無

2 韓国語講座の開設時期

外国人向け韓国語教育講座の開設時期を便宜的に、第一期の草創期、第二期の発展期、第三期の拡散期に分けることにする。第一期は1990年以前の韓国語教育の草分け的な時期でいくつかの学校が先駆的に韓国語教育講座を設けた。第二期は1990年代に入って韓国語教育が盛んになり、韓国語教育がブームになったと言える時期であるが、韓国語教育講座の開設校は首都圏に集中している。第三期は2000年代に入って韓国語を学ぼうとする外国人学習者が急速に増え、韓国語教育が全国的に拡散して行った時期である。2002年には韓国がワールドカップ・サッカーの共同開催国になったことが大きく作用したと思われるが、外国人留学生在が急増し、首都圏ばかりでなく地方都市にも相次いで韓国語講座が開設された。

韓国語教育講座の開設時期別に今回の調査対象校を分類すると次の通りであ

る（括弧内は韓国語講座開設年度）。

第一期（ - 1989）：草創期

延世大学校（1959）、ソウル大学校（1969）、高麗大学校（1986）、鮮文大学校（1989）

第二期（1990年代）：発展期

カナダ韓国語学院（1991）、梨花女子大学校（1991）、韓国外国語大学校（1992）、慶熙大学校（1993）、大田大学校（1994）、東亜大学校（1994）、成均館大学校（1996）、淑明女子大学校（1997）、漢陽大学校（1997）、建国大学校（1998）

第三期（2000 - ）：拡散期

東西大学校（2000）、培材大学校（2000）、釜山大学校（2000）、全南大学校（2000）、慶北大学校（2001）、東義大学校（2001）、釜慶大学校（2001）、大邱大学校（2002）

3 開設の目的

いずれの学校も広報パンフレットなどに開設目的を謳っているが、文言の違いはあっても内容的には大同小異である。したがって、ここではそれを敢えて無視し、今回の調査で各教育機関の授業担当者や事務関係者とのインタビューで得た解説目的や実施をめぐる事情に関する情報を掲げることにする。生の声でありある意味で実態により近い情報であると考えられるが、私的な性格を帯びていることも否めない。

延世大学校（言語研究教育院韓国語学堂）

ハングルの優秀性を広めるために解説した。留学の同期は学問研究もあり職業もある。留学生は増加しているけれども、最近では、従来とは傾向が変わって中国からの学生が増えていることが目立つ。

ソウル大学校（言語教育院）

学問研究および就職などの目的で来韓し韓国語を勉強しようとする外国人、在外僑胞に韓国語および韓国文化を教育するために解説した。現在のところ文化の違いによるトラブルも多く、また教え方などの難しさを感じる。その反面多様な文化の体験ができる。

高麗大学校（韓国語教育センター）

世界における韓国の地位が徐々に高まってきたことに伴ない、韓国語と韓国文化を世界に広めるために開設した。韓国文化の学習を希望する外国人と在外国民に韓国語を教育する。下宿の斡旋など留学生に対する便宜提供を事務室で行っており、そのよ

崔 昇浩・飯田秀敏

うな事務的な面ではさほど困難な問題はないが、留学生との交流で様々な問題が生じている。

鮮文大学校（韓国教育院）

韓国を広く世界に知ってもらうために開設した。毎年、卒業生のうち 70～80 名が鮮文大学に進学しており、10名程度が他の大学に進学している。現在外国人の韓国語学習者が増えており、今後韓国語教育が更に発展する可能性がある。2005年は学期当り 450～500 名程度を受け容れることになる見込みである。受付窓口を東京にもっている。

カナダ韓国語学院

かつて延世大学韓国語学堂で韓国語教育に携わっていた者が、やりがいを感じながらも、教材・教授法研究や教材作製に適した環境ではないこと、教育課程に教師側の意見が十分に反映されないことなどを感じ、民間教育機関として設立するに至った。現在は、韓国語の実力向上のための教育プログラムの開発に取り組んでいる。韓国語学習者が年々増加の傾向にある。日本でも韓国・韓国語ブームが起こっていることが感じとれる。

梨花女子大学校（言語教育院）

開設当初は韓国を世界に知ってもらうことが目的であったが、最近では外国人留学生の増加に伴いその要望に応えることが主たる目的となっている。韓国語教育を国家的な次元で管理する必要があると思われる。中国や東南アジア諸国では就職の際に韓国語能力が重要視されるようになり、これらの地域からの留学生が多い。韓国語教育の目的、韓国語学習の動機が変化しつつあり、将来事業性はあると思われる。

韓国外国語大学校（外国語研修評価院）

在外国民に対する韓国語教育を目的として開設した。外国人と交流ができるので難しさよりも楽しさのほうが大きい。

慶熙大学校（国際教育院）

韓国語学習希望者の要望に応えるために開設した。姉妹校の交換留学生に対する韓国語教育が一次的な目的であった。在外国民および外国人に対する韓国学の基礎となる韓国語教育、あるいは国際化された大学として外国人留学生のための予備課程としての役割も果たしている。当初は語学研修のためだけの学生がほとんどであったが、現在では大学・大学院に進学するために韓国語を学ぼうとする学習者が増えている。学生の急増により教室不足やコミュニケーション上の問題などが生じているが、トウミ制度²の導入により家族的な雰囲気²で教育を行っている。

大田大学校（外国語情報社会教育院）

韓国を広く知ってもらい、国際交流を進めるために開設した。

² チューター制度の一種。慶熙大学の場合、学生が週 5 時間以上留学生と交流することで奉仕 1 単位を得る。

韓国における外国語としての韓国語教育の実態調査

東亜大学校（社会教育院）

外国人および在外国民に対する韓国語教育を目的として開設した。現在、様々な国から学生を受け容れている。

成均館大学校（成均語学院）

韓国語と韓国文化を知ってもらうために開設した。学習者は年々増えおり、規模も大きくなる傾向にある。

淑明女子大学校（国際言語教育院）

必要不可欠との判断により開設した。現状としては広報の必要性を感じている。またシステムの面において学校レベルで考える必要がある。

漢陽大学校（国際語学院）

学習者の要望に応じて、韓国語と韓国文化を知らせるために開設した。後発の教育機関ではどこでも同じ事情であろうが、開発途上国からの留学生の場合査証を取得することが難しい。

建国大学校（外国語教育院）

総長の指示により開設された。学生は増えているけれども、下宿の斡旋など学生個人へのサポートや就学状況の把握などに困難を感じている。

東西大学校（東西語学堂）

戦略的に韓国語教育関係の講座を開設した。同時に外国人向け韓国語教育の資格獲得のためのプログラムも開設した。欧米圏からの留学生の場合は長期的な韓国生活に慣れるための韓国文化の教育も必要である。日本からの留学生の場合、帰国後就職に役立った人もいる。また、中等教育担当教師に対する日本語研修のプログラムもあり、その受講生宅に外国人留学生をホームステイさせ、韓国文化を体験してもらっている。

培材大学校（韓国語教育院）

韓国語を広め、外国人留学生と韓国文化を共有するために開設した。文化面の教育にも力を入れており、サイバー講義も計画中である。

釜山大学校（言語教育院）

電話による問い合わせなど学習希望者が多かったので開設を決めた。

全南大学校（言語教育院）

国際交流の立場から韓国を広く知ってもらうために開設を決めた。地方であるので言語習得面、つまり、韓国語で生活する上でことばが通じないと意思疎通の面で困難があるのでサービスする意味から設置した。団体交流9月から中国人1年過程募集を予定している。

慶北大学校（国際交流センター）

元々韓国語の学習希望者が多く、その要望に応じて開設した。当初は主として在外国民が対象であった。現在は規模が大きくなりつつある。韓国の文化体験のコースも設けている。ワールドカップ・サッカー大会以降韓国ブームである。

東義大学校（外国語教育院）

地方都市の釜山には外国人が少ないので、国際交流の活性化のために開設した。ピ

崔 昇浩・飯田秀敏

ザ取得だけだめに入学しようとする場合もある。南米やモンゴルなどからも電話での問い合わせがあるのを見ると、韓国語の世界化と地位向上を感じる。

釜慶大学校（外国語教育院）

外国人留学生に韓国語だけではなく韓国文化体験をしてもらうために開設した。韓国語教育講座の短期コースはまだソウルなど大都市に比べてあまり知られてない。そのため学習者が受講の機会を逃す場合もある

大邱大学校（国際交流センター）

外国人留学生の言語問題の解決（中国留学生 32 名） 姉妹大学との交流、外国人誘致事業の支援を目的として開設を決めた。しかし、定員割れの現象を起こしている。地方大学では東南アジア出身が多い。特に中国人学習者向けの事業としている。

以上から、外国人向け韓国語講座開設の目的は概ね次の 6 項目にまとめられよう。

外国人や在外国民に対する韓国語教育
韓国・韓国文化を世界に広めるため
外国人留学生の増加への対応
国際交流（姉妹校交流）の観点から
事業性（ビジネスとして成り立つ）
時流に遅れないため

4 実施状況

外国語としての韓国語教育の実施状況に関しては、次の 7 つの観点から調査した。

学期区分
正規クラスのレベル区分
特別クラス
受講者数・受講者の国別分布・教員数
教材
成績証明書
担当教官の来歴

4.1 学期区分

一年の教育課程をいくつの学期に区分しているかについては、2学期制、4学期制、6学期制が採用されている。調査対象校の内訳は表1の通りである。

表1 学期区分

2学期制	慶熙大学校、大邱大学校、鮮文大学校（3校）
4学期制	建国大学校、慶北大学校、高麗大学校、大田大学校、東西大学校、東亜大学校、東義大学校、培材大学校、釜慶大学校、釜山大学校、ソウル大学校、成均館大学校、淑明女子大学校、梨花女子大学校、延世大学校、全南大学校、韓国外国語大学校、漢陽大学校（18校）
6学期制	カナダ韓国語学院（1校）

大部分の学校は4学期制で運営している。大学における学期区分が2学期制であるのに対して、韓国語教育が主として4学期制で行われるのは、週当たり20時間、10週200時間を1クールとするのが基本になっているためである。韓国語教育担当機関が大学組織の中で独立しているために独自の学期制を採用することができる。

慶熙大学校、大邱大学校、鮮文大学校の3校では、それぞれの特殊な事情により2学期制を採っている。慶熙大学校の場合は16週で運営し、学部学生と同様に単位認定をすることを売り物にしている。慶熙大学校も当初は4学期制にしようとする案も検討されたが、政府招請外国人奨学生への受入れ機関として韓国語研修を行うこと、姉妹校からの交換留学生に対する単位認定のことなどを考慮して最終的に2学期制にした。鮮文大学校の場合も成績を学部学生と同等に出すための措置である。大邱大学校の場合は、受講者を学部進学を目指す研究生として位置づけているからである。

カナダ韓国語学院では、6学期制という異例の学期区分を採っている。これは、民間教育機関であるという特殊事情によるものである。6学期制とすることで、夏休みと冬休みにも正規クラスの受講生を募集できるというメリットがある。

4.2 正規クラスの授業レベル区分

正規クラスとして開講される授業のレベル区分は、1段階から8段階まで学校によって様々である。

最も多いのは6段階区分であるが、これは韓国語教育の老舗である延世大学校、ソウル大学校、高麗大学校が6段階区分を採用しているため、それに倣う学校が多いためであろう。延世大学校では西洋人向け授業と東洋人向け授業とで段階区分が異なる。漢字文化圏の学生であるかないかにより、教授内容が異なるためであろう。全南大学校のように段階区分はあっても、実際にはその一部しか開講されていないという例もある。地方大学では上級レベルの受講生が少ないことによるものである。

クラス編成に際しては、ほとんどの学校において、学期初めにプレイズメント・テストを実施しその結果に基づいてクラス分けをおこなっている。

表2 正規クラスのレベル区分

レベル区分	大学名	備考
8段階	延世大学校(西洋人向け) 漢陽大学校	
6段階	延世大学校(東洋人向け) カナダ韓国語学院 建国大学校 高麗大学校 培材大学校 釜山大学校 ソウル大学校 鮮文大学校 淑明女子大学校 韓国外語大学校 全南大学校*	*全南大学校では、高級クラスの希望者が少なく初級1級から3級までのクラスだけを実施。
5段階	釜慶大学校	
4段階	大邱大学校 東義大学校 成均館大学校	
3段階	大田大学校 東亜大学校 梨花女子大学校 慶熙大学校*	*慶熙大学校では進学する学習者のための韓国学コースを設けている。
2段階	慶北大学校	初級・中級
1段階	東西大学校	初級のみ

4.3 特別クラス

正規のクラス以外に必要なに応じて特別クラスを開講している学校が多い。今回の調査対象校 22 校のうち、過半数の 12 校で特別クラスを設けている。

特別クラスを設置する理由は様々であるが、夏冬の休み期間の集中コース、日本人向けクラスなどが多い。

表 3 特別クラス

大 学 名	特 別 ク ラ ス の 内 容
カナダ韓国語学院	春夏年末コース、個人対象集中学習コース(1～2週間)
慶北大学校	一般人コース(週3回夕方; 2名)、短期4週間集中コース
東西大学校	日曜日クラス(日本人対象 20 人クラス、社会人対象 8 人クラス)、休み集中クラス
東義大学校	韓国語教育コースの活性化のための個人クラス
倍材大学校	短期コース(5人以上を対象)
釜慶大学校	日本人向け夏季集中コース(3週間)
釜山大学校	3人クラスと個人クラス(夕方開講)
ソウル大学校	研究クラス、夕方クラス、在学生クラス、マレーシアクラス、日本人対象の夏期と冬期のコース
成均館大学校	能力別特別クラス(学習レベルが特に低かったり高かったりした場合に対応するため)
韓国外国語大学	外部からの要望に応じて随時開講するクラス、短期集中コース2回
慶熙大学校	在日韓国人高校生のための研修プログラム(大阪建国学校在学生に対する在外国民教育)
高麗大学校	海外僑胞青少年夏学校、日本人特別コース2回、春夏集中コース

4.4 受講者数、受講者の国別分布、教員数

各学校の受講者数は今回の調査期間に最も近い学期の正規クラスの受講生で示すことにした(次頁表4)。学期毎の変動があり、特別クラスの受講者は含まれていないので、正確な数値ではない。受講者の国別分布についてはもう少し長期にわたる概算的な数字を示してある。教員数は常勤教員と非常勤教員に分けて示した。

受講者数 100 名を超える学校は、鮮文大学校(300 名)を除いて首都圏に集中しており、地方大学では 10 名前後の小規模で行なわれているところも多い。

表4 受講者数・受講者の国別分布・教員数

学校名	受講者数	受講者の国別分布	教員数	
			常勤	非常勤
延世大学校	700	日本人と在外国民 50%、中国人 25%、その他 40 カ国	13	87
慶熙大学校	320	中国人 50%、日本人 30%、その他 25 カ国	7	40
鮮文大学校	300	日本人 75%、その他 28 カ国	4	30
梨花女子大学校	300	日本人 40%、その他 4 カ国	4	26
ソウル大学校	300	中国人 40%、日本人 15%、その他 40 カ国	7	40
建国大学校	200	中国人 40%、日本人 20%、その他 26 カ国	8	12
漢陽大学校	150	中国人 40%、日本人 20%、その他 15 カ国	2	15
高麗大学校	140	日本人と在外国民 50%、中国人 25%、その他 10 カ国		16
韓国外国語大学校	100	日本人 40%、中国人 20%、その他 40% (10 カ国以上)	1	4
成均館大学校	80	中国人 70%、その他 30% (日本、カナダ、モンゴル、フィリピン、ロシア、アメリカ)	6	
カナダ韓国語学院	80	日本 80%、その他 20% (アメリカ・中国・ドイツ・フランス)	3	22
東亜大学校	60	日本人 40%、中国人 30%、ロシア 20%	4	10
釜山大学校	60	日本人 40%、中国人 30%、その他 30% (10 カ国)		5
淑明女子大学校	50	日本人と在外国民 40%、中国人と在外国民 40%		7
釜慶大学校	43	日本人 70%、その他 30% (東南アジア、台湾、中国)		5
東西大学校	30	日本人 50%、アメリカ人 20%、カナダ人 20%、中国人 10%		3
全南大学校	30	日本人 60%、その他 40% (中国、ロシア、カナダ、フィリピン、ベトナム、イギリス、アイルランド、カンボジア)	1	2
大邱大学校	16	中国人 15 人、日本人 1 人	1	2
培材大学校	11	中国人 50%、その他 50% (日本、ロシア、ベトナム、インド、アメリカ)	2	5
慶北大学校	11	日本人 60%、その他 40% (台湾、中国)	2	
東義大学校	11	ロシア 40%、日本人 30%、その他 30% (3 カ国：中国、アメリカ、タイ)	1	1
大田大学校	10	中国人 80%、日本人 15%、その他 5% (3 カ国)	2	

外国人向け韓国語教育の地方分散化が始まったとはいえ、まだ地方大学には留学生が少ないことを端的に示している。

受講者の国別分布では、日本人受講者は首都圏、地方都市を問わず半数近くを占めているが、最近の傾向として中国人受講者の増加が著しい。慶熙大学校、建

国大大学校、成均館大学校、大邱大学校、培材大学校、大田大学校などのように、中国人留学生を優先的あるいは集中的に受け容れていると思われる学校が増えている。韓中関係の緊密化を反映しているものと解釈される。ただし、滞在期間の点から見ると、中国人留学生と日本人留学生では顕著な違いが見られる。中国人は交換留学生として来韓し長期滞在するものが多いのに対して、日本人の場合は短期留学者が多いとのことである。

教員数では、当然のことながら受講者数の多いところほど常勤教員が多いが、それでも非常勤依存率は非常に高い。中には、常勤教員を置かずに非常勤教員だけで運営しているところもある。

4.5 教科書

外国人向け韓国語授業においてどのような教材を用いているかを調査した結果は次の通りである。

自前のテキストを使用している学校：

カナダ韓国語学院、慶北大学校、慶熙大学校、高麗大学校、東亜大学校、ソウル大学校、延世大学校、梨花女子大学校、韓国外国語大学校、漢陽大学校

自前のテキストと他のテキストを併用している学校：

培材大学校、鮮文大学校、成均館大学校、淑明女子大学校

自前のテキストを持たない学校：

建国大学校、大邱大学校、大田大学校、東西大学校、東義大学校、釜慶大学校、釜山大学校、全南大学校

自前のテキストと言っても出版されたものだけではなく、自主製作の教材を簡易製本した段階のものも含む。現場の教師が現場の必要に応じて作ったものであれば出版されているかいないかは重要なことではない。高麗大学校では『韓国語』（6巻）を『韓国語会話』（6巻）出版しているが、授業では『韓国語会話』だけを使っている。特別クラスでは簡易製本の教材を用いている。慶熙大学校では、初級と中級の授業で出版した教科書を使っているが、高級(上級)では私家版の教材を使っている。同様に、韓国外国語大学校でも初級クラスでは出版した教科書を使用しているが、中級と高級は私家版教材を使っている。慶北大学校と漢

崔 昇浩・飯田秀敏

陽大大学では、まだ教科書を出版してはいないが、自前の手作り教材を使用している。

自前の教科書を持たない学校や自前の教科書と他所で作られた教科書とを併用している学校で、どのような教科書を採用しているかを調べてみた結果は次の通りである。

ソウル大大学出版のもの：

建国大大学、東西大大学、釜慶大大学、大田大大学、淑明女子大大学（中級クラス）、成均館大大学

高麗大大学出版のもの：

釜山大大学

延世大大学出版のもの：

鮮文大大学（高級クラス）、東義大大学、大田大大学

梨花女子大大学出版のもの：

淑明女子大大学（高級クラス）、成均館大大学、大邱大大学

慶熙大大学出版のもの：

大邱大大学（入門クラス）

4.6 成績証明書

今回の調査対象校はどこも何らかの形で修了証を出しているが、成績証明書を発行しているかどうかとなると学校によって違いがある。学期毎に成績証明書を発行する学校、修了者の要望があれば発行する学校、発行しない学校に区分すると、その内訳は次の通りである。

每学期成績証明書を出す学校：

カナダ韓国語学院、慶熙大大学、高麗大大学、東亜大大学、ソウル大大学、延世大大学、梨花女子大大学、韓国外国語大大学、慶北大大学、漢陽大大学

要望があれば成績証明書を出す学校：

培材大大学、鮮文大大学、成均館大大学、淑明女子大大学

成績証明書を出さない学校：

建国大大学、釜慶大大学、東西大大学、大邱大大学、東義大大学、釜山大大学、全南大大学

4.7 教育担当者の来歴

韓国語教育の歴史が浅いため韓国語教育の専門家が現場に立っている例は極めて少ない。非常勤講師については十分に把握されていない所が多いので正確な数値を出すことができなかったが、少数派であることは間違いない。今回の調査で分かった範囲内では、国語国文学、外国語国文学（露語露文学、独語独文学、英語英文学、日語日文学、中語中文学）、教育学等の分野を背景とする教師が大部分であった。

5 韓国語教育研究

現在韓国で韓国語教育学を専攻できる学校は次の通りである。

- 1) 韓国語教育を専攻できる大学院
一般大学院³： 鮮文大学校、淑明女子大学校
教育大学院： 慶熙大学校、高麗大学校、釜慶大学校、ソウル大学校、延世大学校、梨花女子大学校、韓国外国語大学校、漢陽大学校
- 2) 韓国語教育を学部レベルで専攻できる大学：慶熙大学校、釜慶大学校
- 3) 韓国語教員養成のための授業を持つ大学：培材大学校、釜慶大学校、釜山大学校、淑明女子大学校

調査対象校の半数近くの大学の大学院で韓国語教育学を専攻できることになっているが、今回の調査ではどの程度の教育を行っているのかその実態を把握することはできなかった。韓国語教育学の講座を開設して間もない大学がほとんどであることから見て、この分野の専門知識をもった人材を世に送り出すのは今後のことであると考えられる。

講座を開設してもその運営は変則的な所も見られる。例えば、釜慶大学校では国語国文科、日語日文科、国際地域学部、史学科に属している教育大学院の学生が韓国語教育連繫専攻コースとして韓国語教育を専攻することができる、という

³ 教育大学院は職業人に対する高等専門教育を行うための大学院で、普通、夜間あるいは夏冬の休業期間中に授業が行われる。

ような形で実施している。また、釜山大学校では韓国語教員養成課程をセンター長が4日間の特別講義の形で行っている。培材大学校では、韓国人向けとしてではなく、外国人からの要望があるときに夏季と冬期に短期の研修の形で韓国語教員養成のための講座を開講している。さらに、民間教育機関であるカナダ韓国語学院では、韓国語教育コースを正規の課程として設置したがうまくいかず、現在では、学院が教師を採用する際に一年間のセミナー形式で韓国語教育指導を行っている。

6 まとめ

以上、現地調査によって得られた情報に基づいて、韓国における外国語としての韓国語教育の実態を概略した。状況が非常に流動的であり、調査の不備・不徹底のために正確に現状を描き出すところまでは行かなかったが、おおよその様子は把握できたと思う。最後に、調査結果の分析を通じて感じられたことを二、三指摘しておきたい。

2000年を前後して、韓国における外国語としての韓国語教育が明らかに大きな転換期に入ったのは紛れもない事実である。日本や中国からの留学生の急増に伴い韓国語を学ぶ外国人の数は10年前に比べておそらく10倍近い増加を見せていると思われる。留学生の出身国の多様化も顕著である。従来から留学生の多かった日本、中国、アメリカ以外にも世界の様々な地域からの留学生が年々増えている。また、来韓の目的も従来のように単なる語学研修のためというのではなく、本格的な学問研究のためとか求職のためというように多様化している。同時に、多様化は教育場所の首都圏集中から地方都市への拡散という形でも進行している。こうした留学生の急増・多様化の現象は、韓国の国際的地位の向上に呼応するものであると考えられる。2002年WCサッカー大会という特殊事情が大きく作用したことは否定できないが、そうでなくとも韓国は過去30年ほどの間に目覚ましい経済発展を遂げ、90年代末にIMF危機に見舞われたがこれを見事に克服し、世界有数の経済大国、技術大国としての地歩を着実に固めつつある。したがって、今後の韓国の経済情勢次第であるが、外国人留学生の来韓の勢いは当分の間持続するものと考えられる。

韓国語学習を希望する者が急増しているのに対して、その受け入れ態勢がどうなっているかとなると、非常に立ち後れていると言わざるを得ない。草創期に講座を開設した延世大学校、ソウル大学校、高麗大学校など韓国語教育の老舗とも言えるところでは、それなりの対応策を取ることができるけれども、2000年以降に開設した後発組みの学校では目の前の要請に対応するのが精一杯で、講座運営を安定した軌道に乗せるには至っていないのが実状のようである。周到的な計画と準備がないままに、ともかく開設してみようということで踏み切ったところが少なくないようである。そこには、大学評価との関係で時流に遅れまいとする意識も大きく作用しているのではないかと推測される。

受け入れ態勢の不備は様々な面に現れているが、特に専任教官数の不足が大きな問題である。どの学校も授業開講数に見合うだけの教官を採用している。しかし、その多くは非常勤教官であり専任教官の比率が低い。伝統のある学校や履修者の多い首都圏の学校ではかなりの数の専任教官を置いている所もあるが、地方の学校などでは専任教官を一人も持たない所がかなりある。といっても非常勤教官と専任教官の教育者としてのレベル差に問題があるというのではない。おそらくその点ではほとんど差はなく問題はないであろうと思われる。しかし、言語教育は教育・学習の現場だけで成立するものではない。教育・学習効果を上げるためには明確な目標を持った綿密な授業計画を伴わなければならない。そのような授業計画立案と授業運営の核として専任教官は不可欠である。また、教授法の研究や教材の開発にとっても専任教官はなくてはならない存在である。実際、専任教官がいない所、少ない所では出来合いの教科書を使用せざるを得ない状況である。もちろん、副教材として種々の教材を独自に作成し利用していると思われるが、それらを総合し与えられた教育環境にふさわしい独自の教材を開発するに至るには専任教官の充実がなくてはならない条件となるであろう。さらに、韓国語担当教官の地位も不安定なようである。多くの大学では、専任教官といっても研究員とという資格で雇用されており、大学の他の教官とは区別されている。これには様々な事情があるとのことであるが、今後、韓国語教育を安定した軌道に乗せるためには、梨花女子大学校関係者の指摘にもあったように、大学の裁量だけで運営するのではなく長期的な展望に立った国家レベルでの積極的支援によって教育組織の充実を図らなければならないと思われる。

韓国語教員養成のための講座が多くの大学で開設されているが、まだ緒につい

崔 昇浩・飯田秀敏

たばかりで専門的知識と技能を備えた人材を送り出すのはこれからのことであろう。そうした人材に活躍の場を与えるためにも韓国語教育組織の充実が何にもまして必要であると思われる。

韓国語教育のための学会が組織されているが、まだ活動は限定的であるようである。今後、韓国語教育に従事する者の数が増えれば、学会・研究活動も活発になり、それがまた韓国語教育の充実・発展の大きな原動力として作用するものと期待される。

今回の調査では対象としなかったが、国内における外国人向け韓国語教育と並行して海外における韓国語教育の充実・発展にも積極的な努力が求められる。一部の大学では海外の韓国語教員のための韓国語教育講座を開いているケースもあるが、これは個々の大学に任せられる事業ではなく、国家レベルで推進すべき課題である。国内で養成した韓国語教員を派遣する場を確保するためにも、海外から優秀な留学生を募るためにも重要な事業であると考えられる。

最後にではあるが、今回の韓国語教育に関する実態調査にご協力いただいた方々にこの場を借りて深く謝意を表したい。